

# 殿ダム渇水効果 ～令和元年～

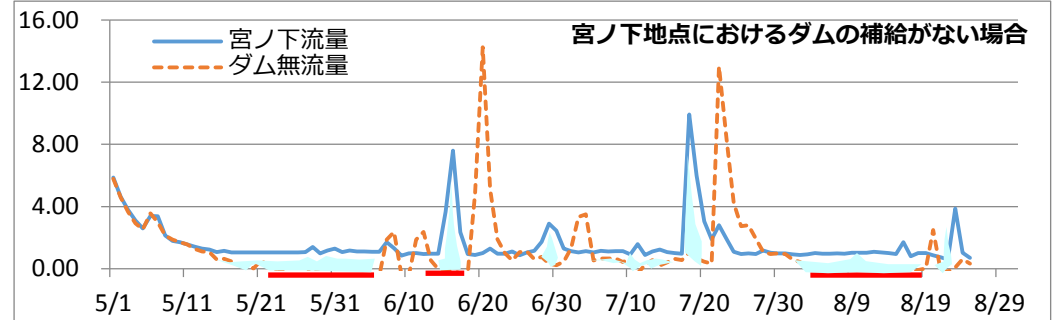
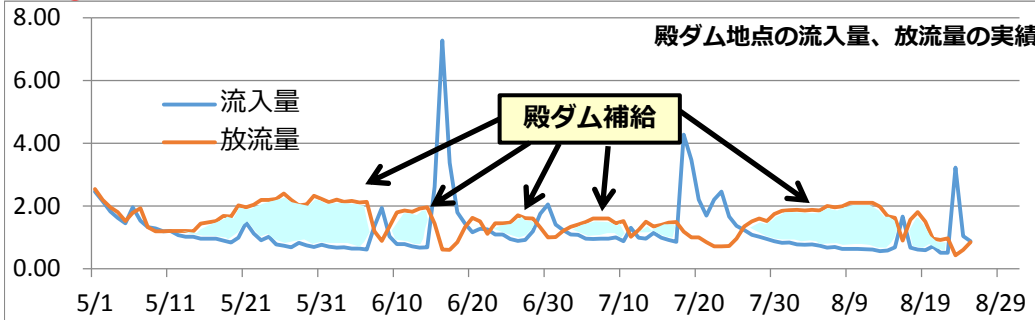
殿ダムには、川の水量が豊かな時には水をため、必要な水量が不足している時には水を流し、年間を通して利用できる

水を安定的に確保する役割を持っています。

☆ダムの運用により、

①水田や畑の渇水被害が軽減され、川の生物の生息場所を守り、河川環境が保全されます。

②工業用水や水道用水の安定的な供給のための取水が可能となります。



平成31年4月10日現在



令和元年8月22日



貯水位の変化

平成30年4月10日の水位  
(平常時最高水位: 182.80m)  
貯水率: 100%

令和元年8月22日の最低水位  
(170.06m 12.74m低下)  
貯水率: 27.6%

上空から見た殿ダム(ドローン撮影)



平成6年8月(ダムがない時の渇水状況)



玉鉾地点

令和元年8月22日



玉鉾地点

袋川の水量(玉鉾付近)

平成31年3月の少雪、令和元年5・7月の少雨の影響で、ダムの貯水率が低下し、8月の同時期と比べて過去最低を記録しました。ダム湖に貯めた水を放流し袋川の水量を確保しています。

殿ダム完成前は、渇水になると水が涸れていたもので、殿ダムの効果が現れたと言えます。